



ゆうきまい こめ 有機米ってどんな米なの

かがくひりょう のうやく つか ひ そだ こめ 化学肥料や農薬を使わず、たい肥などで育てたお米

ゆうき ゆうきぶつ いみ せいめいかつどう つく いみ たい ことば
有機は有機物という意味で、生命活動で作られたものを意味します。これに対する言葉は、
むきぶつ せいめいかつどう つく だ じんこう かがくごうせいぶつ いみ かがくひりょう
無機物で生命活動では作り出されていない、人工の化学合成物という意味です。化学肥料や
のうやく かがくひりょう のうやく つか そだ ほうほう むのうやく
農薬などがそうです。これらの化学肥料や、農薬を使わずに育てる方法を、無農薬さいばい、
ゆうき ゆうき こめ ゆうきまい
または有機さいばいといいます。このように有機さいばいで作った米を有機米といいます。
むのうやく ゆうき な つか
この無農薬さいばいと有機さいばいというよび名は、あいまいに使われていますので、
な きじゆん つく
よび名の基準が作られようとしています。

かがくひりょう か ひ つか 化学肥料の代わりに、たい肥を使う

しよくぶつ そだ つち つち どじょう よ お ぼ
植物が育つ土は、ただの土ではなく土壌とよばれ、ほど良く落ち葉やわらくずなどのくさ
ゆうきぶつ つうきせい ひ ひりょう ふそく
った有機物がふくまれてやわらかく、また、通気性があります。たい肥だけでは肥料が不足
するので、ニワトリやウシ、ウマのふんのまじったもの、魚などのくさったものを入れます。
かがくひりょう つか つち えいようぶん
化学肥料ばかりを使っていると、土がだんだんかたくなってきます。また、栄養分なども、
しゆうかく うな ひ つか どじょう せいしつ かいふく
収穫とともに失われていきます。たい肥を使うことで、あれてやせた土壌の性質は回復しま
す。

ざっそうと ひとで つか 雑草取りは、人手やアイガモなどを使う

のうやく じんたい むが い ゆる がい
農薬は、人体に無害なものだけが許されていますが、まったく害がないわけではありません
がいちゆう じよきよ ざっそうと のうやく しぜん じょうたい おな
ん。害虫の除去、雑草取りなども、これらの農薬でなく、自然の状態で行います。
ゆうきどじょう がいちゆう た おお はっせい たす か
有機土壌には、害虫を食べるクモが多く発生しますので、その助けを借りたり、アイガモ
ざっそう た のうやく つか ほうほう そだ
に雑草を食べてもらうなど、農薬を使わない方法で育てます。(監修・中山 周平)

